（公財）中央果実協会
No.307

世界柑橘類機関の北半球年間生産量予測は約9％減少

FreshFruitPortal　2024年11月19日

世界柑橘類機関（WCO）は、来たる2024-25年度柑橘類シーズンの北半球柑橘類年間予測を発表した。

この暫定的な予測は、地中海地域と米国の業界団体のデータに基づいており、エジプト、ギリシャ、イスラエル、イタリア、モロッコ、スペイン、チュニジア、トルコのほか、初めてポルトガルのデータが含まれている。

報告された数字ではこれらの国々の柑橘類の生産量が2,729万7,216トンと推定され、前シーズンと比較して8.73％の減少を示している。また、過去4シーズンの平均よりも5.88％少なくなっている。

柑橘類の輸出量も同様の傾向をたどり、総輸出量は昨シーズンより9％、過去4シーズンの平均より9.7％少ない837万9,831トンと予想されている。

WCOのフィリップ・ビナール事務局長は、市場の見通しは豊作だった昨年からの減少を示していると述べ、「これは主に、トルコが昨シーズンの記録的な数字から通常の生産水準に戻ったことと、エジプトで減少が予想されるためである。遅霜、干ばつ、熱波などの天候上の問題や新たな病害虫は、生産物の品質、色付き、収穫時期に影響する恒常的な脅威である。市場は依然として地政学的不安定性の影響を受けており、一方で消費者需要は購買力の制約とインフレにより圧迫されている」と語った。

EUの主要生産国の国別の数値を見ると、スペインの柑橘類の生産量は、レモンが過去最高だった昨シーズンから21％減少したため、全体として前シーズンより3.3％少ない610万トンと見込まれる。スペインの（最近の）劇的な気象現象は供給量全体に大きな影響を与えるとは考えられておらず、供給量の予測は変わらない。イタリアはオレンジが17.5％減少し、柑橘類全体では12.3％減の270万トンと予測され、他方、ギリシャは109万トンの横ばいである。

他の地中海諸国では、トルコが昨シーズンの記録的な生産量から17％減となる495万トンと予測される。エジプトの435万トンは、2023-24年度から19％の減少となる。一方、モロッコの生産量は210万トンに増加（+12％）すると予想される。イスラエルの生産量も50万6千トン（+18.5％）に回復すると推定される。

今回初めて予測に貢献したポルトガルは、来シーズン3.3％の減少（合計38万トン）を予測している。

米国の生産量は455万トンに減少（-4％）すると予想され、近年の平均（-11％）と同じく減少が続いている。

ビナール氏は、「WCOは、来シーズンの柑橘類の仕向量についてもある傾向を想定している」と述べた。北半球の柑橘類の輸出量は昨シーズンと比較して9％近くの減となる838万トンと見られ、加工仕向量は516万トンに減少し（-4.％）、国内販売量は残りの1,376万トン（-10％）と見込まれる。

WCOは南半球の2025年の生産量と輸出量の予測を、来年4月に発表する予定である。

出典：世界柑橘類機関